

報道機関 各位

北九州国際映画祭2024 ウェルカムセレモニーブルーカーペット、上映プログラム 登壇ゲスト発表

2024年11月1日～3日に開催する「北九州国際映画祭2024」にご登壇いただくゲストの皆様が決定いたしましたので、お知らせいたします。

映画監督の皆様(五十音順)

(1) 犬童 一心(いぬどう いっしん)氏

1960年生まれ。高校時代より自主映画の監督・製作をスタート。高校時代にぴあフィルムフェスティバルに入選。大学卒業後CMディレクターとして活躍。『二人が喋ってる。』(97)で映画監督協会新人賞。市川準監督『大阪物語』(99)の脚本により商業映画の世界へ。『ジョゼと虎と魚たち』(03)により芸術選奨新人賞。『メゾン・ド・ヒミコ』(05)により芸術選奨文部科学大臣賞。その後『タッチ』(05)、『黄色い涙』(07)、『眉山 びざん』(07)、『グーグーだって猫である』(08)等、話題作を発表。『ゼロの焦点』(09)で日本アカデミー賞優秀作品賞・監督賞・脚本賞、さらに『のぼうの城』(12)で日本アカデミー賞優秀作品賞・監督賞を受賞。テレビ版「グーグーだって猫である」(14)で放送文化基金賞。その後、『引っ越し大名!』(19)、『最高の人生の見つけ方』(19)、『名付けようのない踊り』『ハウ』(22)など。

CM「詐欺は防げる」ACC 金賞「オリコJUクレジット」ACC 銀賞 他受賞多数。



(2) 岩松 茂(いわまつ しげる)氏

北九州市出身。東京で数多くの映画制作に携わったのち、北九州へ帰郷し、活動中。

1980年横浜放送映画専門学院(現 日本映画大学校)卒業後、三船プロダクション撮影部に入り、「大江戸捜査網」「土曜ワイド劇場」等に関わる。以降、フリーランスとして「太陽にほえろ!」「西部警察」等のテレビドラマをはじめ「刑事物語」で劇場映画初参加。大林宣彦監督の下で映像も担当。



北九州国際映画祭2024へのメッセージ

北九州国際映画祭、第2回目の開催、おめでとうございます。今回、映画祭に私の監督作品「あなたが眠りにつくまえに」を上映させていただける事になり心より感謝いたします。この作品が北九州を舞台にして撮った映画の3作品目に当たります。これまで、映画の舞台自体が北九州と言う作品はあまり見受けられませんでした。そこで地元発信の映画を創ろうと言う思いで出来た北九州映画実行委員会。これからも、北九州からの映画を我々の手で発信し続けて行こうと思います。

(3)キム・ミンソン氏

新進気鋭の映画監督。『夏休み』で第41回プサン国際短編映画祭の観客賞を受賞。



(4)ショキール・コリコブ氏

ウズベキスタン出身。2023年ウズベキスタン国立芸術文化大学で映画・テレビ演出の修士号を取得。短編作品が国際的に認められ40を超える賞を受賞。初長編作品『日曜日』(23)は、第25回上海国際映画祭でアジア・ニュー・タレント賞最優秀作品賞を受賞するなど高い評価を得た。現在カザフスタンのプロデューサー、アイゲリム・サティバルディと共同で長編2作目『LEG』を製作中。



(5)羽住 英一郎(はすみ えいいちろう)氏

1967年生まれ(千葉県出身)

「海猿」で劇場映画の監督デビュー。

北九州市では、「海猿」シリーズや「おっぱいバレー」、「ワイルド7」、「OVER DRIVE」、「カラダ探し」、「MOZU」シリーズなど多くの作品を撮影し、現在「カラダ探し」の続編を制作中。

北九州市文化大使に任命されている。



北九州国際映画祭2024へのメッセージ

北九州国際映画祭開催おめでとうございます！

今年も北九州で映画の撮影が実現して喜んでいたところに、映画祭にまで参加出来る事になりとても興奮しています！

いつも映画作りに参加してくだっている北九州の皆さんと再会出来るのを楽しみにしています！

是非一緒に映画祭を楽しみましょう！

(6)松居 大悟(まつい だいご)氏

1985年福岡県北九州市生まれ。劇団ゴジゲン主宰。2012年『アフロ田中』で、長編映画初監督。その後、『ワンダフルワールドエンド』(15)でベルリン国際映画祭出品、『私たちのハアハア』(15)でゆうばり国際ファンタスティック映画祭 2 冠受賞、『アズミ・ハルコは行方不明』(16)は東京国際映画祭・ロッテルダム国際映画祭に正式出品された。

クリープハイプやドレスコースズなどのMVを手がけるほか、テレビ東京系列『バイプレイヤーズ』シリーズのメイン監督も務めた。2021年には自身初の小説『またね家族』を刊行。

2022年に公開された「ちょっと思い出しただけ」は東京国際映画祭にて観客賞とスペシャルメンションをW受賞のほか、ファンタジア国際映画祭 2022 で部門最高賞となる批評家協会賞を受賞。さらに日活ロマンポルノ 50 周年映画「手」が、第 52 回ロッテルダム映画祭「ハーバー部門」に正式出品された。最新作に「不死身ラヴァーズ」(脚本・監督)がある。



俳優の皆様(五十音順)

(7)板谷 由夏(いたや ゆか)氏

1975年6月22日生まれ。1999年、『avec mon mari』(99/大谷健太郎監督)で女優として映画デビューし、ヨコハマ映画祭最優秀新人賞を受賞。以降、数多くの作品へ出演し、『運命じゃない人』(05/内田けんじ監督)では第60回毎日映画コンクール女優助演賞、『サッド ヴァケイション』(07/青山真治監督)では第22回高崎映画祭最優秀助演女優賞、『夜明けまでバス停で』(22/高橋伴明監督)では第32回日本映画批評家大賞主演女優賞など、数々の賞を受賞する日本を代表する実力派女優のひとりである。



北九州国際映画祭2024へのメッセージ

去年に引き続き、北九州国際映画祭に参加できること、とてもとても嬉しいです。北九州には小学6年から21歳まで育ててもらいました。

いまま家族が生活するこの街での映画祭。

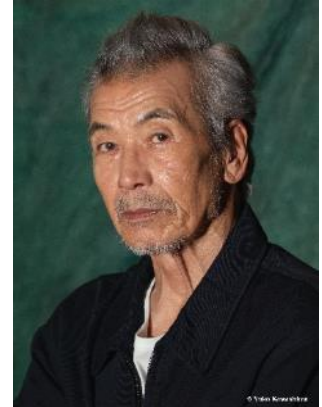
去年、リリー・フランキーさんがおっしゃいました、続けることが大事なんです、と。人生が映画によって救われることがある。色を持つ瞬間がある。

多くの人に体感してほしいと思います。

お会いできることを楽しみにしています。

(8)田中 泯(たなか みん)氏

74年独自の活動を開始。「ハイパーダンス」と称した新たなスタイルを発展。78年ルーブル美術館において海外デビュー。1980年代、旧共産圏で前衛パフォーマンスを多数決行。国際的に高い評価を獲得。85年山村へ移り住み、農業を礎とした舞踊活動を現在も継続中。2002年に映画初出演。以後映像界でも国内外で活動中。著書『僕はずっと裸だった』、共著『意身伝心』、写真集『平間至「Last Movement 最終の身振りへ向けて」(二冊組)』、写真集『岡田正人「海やのあひだ」』、『写真集「光合成」MIN by KEIICHI TAHARA』。22年田中泯の本格的な長編ドキュメンタリー映画「名付けようのない踊り」(犬童一心監督)が公開。www.min-tanaka.com



北九州国際映画祭2024へのメッセージ

ダンスに必死に生きてきた僕が、映画のために必死に生きて人たちがいることを僕として知ることになったのが初めての出演作となった「たそがれ清兵衛」(監督:山田洋次)でした。運良くと言えいいのか、フィルム撮影をしている時代劇だった。映画文化にいち早く傾注したこの土地で国際映画祭を開催すること、素晴らしいと感じます。今回は犬童監督と共に参加します。とても楽しみにしています。

(9)広末 涼子(ひろすえ りょうこ)氏

1980年7月18日生まれ、高知県出身。

『第1回クリアラシル「ぴかぴかフェイスコンテスト」』でグランプリを獲得しデビュー。NTTドコモのCM出演や、シングル「MajiでKoiする5秒前」のリリースなどで話題を集め、人気を博す。

ドラマ『ビーチボーイズ』(97)、映画『鉄道員』(99)、映画『秘密』(99)、映画『おくりびと』(08)、NHK大河ドラマ『龍馬伝』(10)など話題作に多数出演。

2012年公開作映画『鍵泥棒のメソッド』では、『第36回日本アカデミー賞』で、優秀助演女優賞に輝いた。

2024年7月 ファンクラブ「NEW FIELD」開設

2024年12月 東京・丸の内コットンクラブでプレミアム・ライブ「Best Day Ever」の開催が決定。



北九州国際映画祭2024へのメッセージ

北九州国際映画祭2024、開催おめでとうございます。北九州市で皆さんにお会いできるのを楽しみにしています！

(10)光石 研(みついし けん)氏

1961年、福岡県出身。高校在学中に『博多っ子純情』(78/曾根中生監督)のオーディションを受け、主演に抜擢される。以後、様々な役柄を演じ、名バイプレイヤーとして活躍。2016年には映画「お盆の弟」(15/大崎章監督)・「恋人たち」(15/橋口亮輔監督)にて第37回ヨコハマ映画祭助演男優賞、2019年には「デザイナー 渋井直人の休日」にて第15回コンフィデンスアワード・ドラマ賞 主演男優賞を受賞。主演した映画「逃げきれた夢」(23/二ノ宮隆太郎監督)は第76回カンヌ国際映画祭【ACID】部門に正式出品、第33回日本映画プロフェッショナル大賞 主演男優賞を受賞。



北九州州国際映画祭2024へのメッセージ

第二回北九州国際映画祭、開催おめでとう御座います！

去年の第一回に引き続き、今年も御招き頂き、誠にありがとうございます。光栄です！

北九州にとって映画は親友です。離れたくても離れられない。

映画にとっても、北九州の地は、そして市民の皆さんはなくてはならない同志です。励ましあったり讃えあったり、時にはぶつかり、しかしまた、慰め合う。

これは縁なのです！

さあ、こぞっていらして下さい！映画で酔って、トークで酔って。

そして夜はお酒に酔って。

存分に映画祭を楽しんで下さい！

僕らはその為に伺います！

(11)吉本 実憂(よしもと みゆ)氏

1996年12月28日生まれ。福岡県出身。全日本国民的美少女コンテスト グランプリを受賞し芸能界デビュー。その後ドラマ、映画を中心に活躍。映画『透子のセカイ』ではフランス・ニース国際映画祭 最優秀外国映画主演女優賞を受賞。また映画『瞽女 GOZE』にて第30回日本映画批評家大賞 新人女優賞を受賞している。
今年、ドラマ『消せない私』や『パンドラの果実～科学犯罪捜査ファイル～』『買われた男』などに出演。待機作として、映画『シンパイ～歌こそすべて』(2024年11月22日 長野にて先行公開)や『室町無頼』(2025年1月17日公開)がある。



北九州国際映画祭2024へのメッセージ

第二回北九州国際映画祭の開催、おめでとうございます！

地元である北九州が大好きな1人の人間としても、色んな情景を映すことができる場所だなあと北九州に魅力を感じている1人の役者としても、このような形で参加させて頂けて、とても光栄に思います。

私自身、映画はフィクションだけど、ノンフィクションであると思いながら携わせて頂いています。

その“映画”は日常の心情を描くものだからこそ、今回の映画祭をきっかけに1人でも多くの方がより身近に思ってもらえるといいなと思っています！

アドバイザーなど映画関係者の皆様(五十音順)

(12)木全 純治(きまた じゅんじ)氏

1983年、若松孝二監督の誘いにより、シネマスコーレ支配人となる。1996年より「あいち国際女性映画祭」のディレクターとなり、来年30周年を迎える。2021年スコーレ映画塾を開設、22年にシネマスコーレの代表。24年「青春ジャック止められるか、俺たちを2」をプロデュースする。



(13)キム・デファン氏

プサン国際短編映画祭(BISFF)事務局長。
映像作家。



(14)鈴木 一(すずき はじめ)氏

オリオフィルムズ代表。「青い凧」「太陽の少年」「阿片戦争」「鬼が来た！」等の一般公開を実現させる。(株)ワコー入社、初期韓国ブームの仕掛け人として寄与する。2011年独立してオリオフィルムズを設立。主にアジア映画の配給宣伝を行う。「台湾巨匠傑作選」主催者。



(15)チャ・ミンチョル氏

プサン国際短編映画祭(BISFF)チェアマン。
東義(トンイ)大大学教授。



ウェルカムセレモニー(入場無料) 登壇ゲスト

11月1日(金) 16時00分~17時00分

船場広場(小倉北区船場町3-10)

映画監督・俳優などによるブルーカーペットイベント

【登壇ゲスト】

犬童一心、岩松茂、ショキール・コリコブ、田中泯、羽住英一郎、広末涼子、松居大悟、光石研、吉本実憂



※船場広場では11月2日(土)3日(日)にも、「まちなか映画館」と題して、映画上映(無料)やキッチンカーなどによる食のイベントなど様々イベントを開催します。

オープニングセレモニー・オープニング作品 登壇ゲスト

11月1日(金) 18時00分～20時35分

J:COM 北九州芸術劇場 中劇場(小倉北区室町1丁目-1-1-11)

オープニング作品監督などによるトーク、オープニング作品「日曜日」上映

【登壇ゲスト】

犬童一心、岩松茂、キム・デファン、ショキール・コリコブ、田中泯、
チャ・ミンチョル、羽住英一郎、広末涼子、松居大悟、光石研、吉本実憂

【オープニング作品】(KIFFプレミア作品)

『日曜日』(九州プレミア)

作品概要 2023年 ウズベキスタン 97分

監督:ショキール・コリコブ

出演:アブドゥラクモン・ユスファリエフ

ロザ・ピヤゾワ



(c) Yoshlik

KIFFプレミア作品 登壇ゲスト

11月3日(日) 18時00分～20時20分

T・ジョイリバーウォーク北九州(小倉北区室町1丁目1-1)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 木全純治、鈴木一

【上映作品】 『盛夏の聲』

作品概要 2024年 中国 105分

監督:チャン・ユーディ

出演:ビエン・チェン、チョウ・メイジュン、チェン・シャオシー



協力:(株)ワイズ・インフィニティ

松居大悟セレクション 登壇ゲスト

11月2日(土) 10時20分～12時50分

J:COM 北九州芸術劇場 中劇場(小倉北区室町1丁目-1-1-11)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 松居大悟

【上映作品】 『ちょっと思い出しただけ』

作品概要 2022年 日本 97分

監督:松居大悟

出演:池松壮亮、伊藤沙莉



©2022「ちょっと思い出しただけ」製作委員会

11月2日(土) 13時35分～14時59分

J:COM 北九州芸術劇場 中劇場(小倉北区室町1丁目-1-1-11)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 松居大悟

【上映作品】 『ゴースト・トロピック』

作品概要 2019年 ベルギー 84分

監督:バス・ドウヴォス

出演:サーディア・ベンタイプ、マイケ・ネーヴィレ



©Quetzalcoatli, 10.80 films, Minds Meet production

11月2日(土) 16時15分～18時40分

小倉昭和館(小倉北区魚町4丁目2-9)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 松居大悟

【上映作品】 『柳川』

作品概要 2021年 中国 112分

監督:チャン・リュル

出演:ニーニー、池松壮亮



11月3日(日) 10時00分～12時06分

小倉昭和館(小倉北区魚町4丁目2-9)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 松居大悟

【上映作品】 『私たちのハアハア』

作品概要 2015年 日本 91分

監督:松居大悟

出演:井上苑子、大関れいか、三浦透子



©2015「私たちのハアハア」制作委員会

犬童一心セレクション 登壇ゲスト

11月2日(土) 13時00分～15時45分

小倉昭和館(小倉北区魚町4丁目2-9)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 犬童一心、広末涼子

【上映作品】 『ゼロの焦点』

作品概要 2009年 日本 131分

監督:犬童一心

出演:広末涼子、中谷美紀、木村多江



©2009「ゼロの焦点」製作委員会

11月2日(土) 19時10分～21時45分

小倉昭和館(小倉北区魚町4丁目2-9)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 犬童一心、田中泯

【上映作品】 『メゾン・ド・ヒミコ』

作品概要 2005年 日本 131分

監督:犬童一心

出演:オダギリジョー、柴咲コウ、田中泯



©2005『メゾン・ド・ヒミコ』製作委員会

11月3日(日) 12時35分～15時15分

小倉昭和館(小倉北区魚町4丁目2-9)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 犬童一心、田中泯、石原淋

【上映作品】 『名付けようのない踊り』※2本立て

作品概要 2021年 日本 114分

監督:犬童一心

出演:田中泯、石原淋、中村達也、大友良英

『Somebody Comes into the Light』

作品概要 2023年 日本 9分

監督:ヴィム・ヴェンダース

出演:田中泯



©2021「名付けようのない踊り」製作委員会



羽住英一郎セレクション 登壇ゲスト

11月2日(土) 10時00分～12時30分

小倉昭和館(小倉北区魚町4丁目2-9)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 羽住英一郎

【上映作品】 『冒険者たち』

作品概要 1967年 フランス 110分

監督:ロベール・アンリコ

出演:アラン・ドロン、リノ・バンチュラ



© Societe Nouvelle de Cinematographie(SNC)-Paris 1967.

11月2日(土) 13時25分～15時45分

シネプレックス小倉(小倉北区砂津3丁目1-1-3-3010)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 羽住英一郎

【上映作品】 『第三の男』

作品概要 1949年 イギリス 100分

監督:キャロル・リード

出演:ジョセフ・コットン、オーソン・ウェルズ



提供: アイ・ヴィー・シー

光石研出演作品 登壇ゲスト

11月2日(土) 18時00分～20時35分

〒ジョイリバーウォーク北九州(小倉北区室町1丁目1-1)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 光石研、松居大悟

【上映作品】 『バイプレイヤーズ～もしも100人の名脇役が映画を作ったら～』

作品概要 2021年 日本 100分

監督:松居大悟

出演:田口トモロヲ、松重豊、光石研、遠藤憲一



©2021「映画 バイプレイヤーズ」製作委員会

板谷由夏出演作品 登壇ゲスト

11月3日(日) 15時00分～17時30分

シネプレックス小倉(小倉北区砂津3丁目1-1-3010)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 板谷由夏

【上映作品】 『37セカンズ』

作品概要 2020年 日本・アメリカ 115分

監督:HIKARI

出演:佳山明、神野三鈴、大東駿介、板谷由夏



©37 seconds filmpartners / 配給: ラビットハウス

吉本実憂出演作品 登壇ゲスト

11月2日(土) 10時20分～12時55分

シネプレックス小倉(小倉北区砂津3丁目1-1-3010)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 吉本実憂

【上映作品】 『罪の余白』

作品概要 2015年 日本 120分

監督:大塚祐吉

出演:内野聖陽、吉本実憂、谷村美月、葵わかな



©2015「罪の余白」フィルムパートナーズ

勝山パークシネマセレクション(入場無料) 登壇ゲスト

11月2日(土) 15時00分～17時05分

船場広場(小倉北区船場町3-10)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 岩松茂、久保慎司

【上映作品】 『あなたが眠りにつくまえに』

作品概要 2024年 日本 92分

監督:岩松茂

出演:梁瀬鈴雅(HKT48)、南野陽子、大和田伸也
石橋颯(HKT48)、市村愛里(HKT48)



©北九州映画実行委員会

国際短編部門:学生セレクション 登壇ゲスト

11月3日(日) 18時45分～21時20分

小倉昭和館(小倉北区魚町4丁目2-9)

登壇ゲストによるトーク、作品上映

【登壇ゲスト】 チャ・ミンチョル、キム・デファン、キム・ミンソン、学生プログラマー

【上映作品】 ※5本立て

『私の母の物語』

作品概要 2023年 韓国 15分08秒

監督:キム・ソヨン、チャン・ミンヒ



写真提供:Busan International Short Film Festival

『夏休み』

作品概要 2023年 韓国 27分44秒

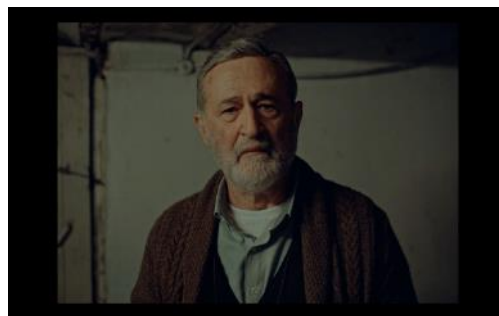
監督:キム・ミンソン



写真提供:Busan International Short Film Festival

『マイナス・ワン』

作品概要 2024年 トルコ 14分47秒
監督:オマール・フェルファト・オズメン



写真提供:Busan International Short Film Festival

『DIVE』

作品概要 2023年 イタリア 12分10秒
監督:アルド・ユリアーノ



写真提供:Busan International Short Film Festival

『楽園の約束』

作品概要 2023年 エジプト、フランス、
カタール 24分59秒
監督:モラド・モスタファ



写真提供:Busan International Short Film Festival

※登壇ゲストは現時点での予定です。今後変更の可能性がありますので、最新情報は公式ホームページをご確認ください

【お問合せ・ご連絡先】

北九州市都市ブランド創造局 MICE・エンターテインメント課
担当 秋吉・片山 電話：093-551-8152